

新型コロナウイルス感染症問題と 医療、介護、暮らしの問題で 同仁会が堺市とこん談

同仁会は、堺市2020年度予算への要望や新型コロナウイルス等の対応について、堺社会保険推進協議会（以下、堺社保協）や、みみはらグループとともに懇談を行い、地域や医療、介護、福祉の現場の声を届けました。

堺市の現状

永藤市政発定後、初の新年度予算がスタートしました。堺市はこれまで、政令都市としての権限と財源を活かし、市民要求をもとに、子どもの医療費助成制度、がん検診無料化、中学校給食の全員喫食の実施計画策定などを進めてきました。しかし、昨年10月の消費税増税、新型コロナウイルス感染症の広がりによって、健康や暮らしに甚大な影響を受けています。市民への健康被害や、中小零細業者をはじめとした経済的損失ははかりしれず、早急な対応が求められます。

堺市との懇談内容

●2月14日、地域包括ケア推進課
 2021年度の介護保険報酬改定を見据えて、堺市の総合事業の状況や今後のとりくみについて、報告を受けました。私たちは、引き続き、総合事業での専門職による介護サービスの継続を要望しました。また、NPO法人結の会ともつとて友の会による有償ボランティア事業「ワンコイン助っ人隊」「おでかけ助っ人隊」を紹介しました。

●2月17日、堺市国保課との懇談
 大阪府は、松井知事の下で、全国に先駆け国保料内統一化を推進しています。堺市は、9年間引き下げてきた国保料を2019年から2年連続値上げ。大阪府を抜き、政令都市でも高い国保料となりました。その結果、収納対策

法人のとりくみを紹介しました。堺市からは、対策本部等のとりくみと、不足するマスクに関して、医療機関、高齢者・障がい者施設・児童福祉施設、学校・学童へのマスクの配布要綱を当日付でホームページで紹介との報告がされました。

●3月27日、堺市環境局と「個別ごみ収集」について懇談
 その後5月11日付で、ホームページに「ふれあいサポート収集」の要綱が掲示されました。対象は、ホームヘルパーの介護を受けている65歳以上の方や、身体障がい者手帳などの交付を受けている方となっています。友の会会員や、「ワンコイン助っ人隊」の利

用者にも早速お知らせしていきたいです。

◆ ◆

同仁会の2020年度のスローガンの一つに、「地域の困難なところ手を差し伸べ、多くの組織、団体、個人とのつながりを広げ、「八幡機能」まちづくりの拠点となる活動をめざす」があります。地域の医療機関、介護事業所とも連携し、地域や医療、介護現場で起こっている様々な「困難事例」を共有し、問題の解決をめざしていきたいと思えます。当面、堺社保協の自治体キャラバン活動をすすめていきます。

鳳クリニックでは、職員の手作りで、飛沫感染防止ビニールカーテンをカウンターや送迎車両に設置しました。感染予防から患者さんは受診を控えますので、収入は激減しています。しかし、コロナ対策のための費用は何の補償もないので、出費が増える一方です。政府や行政は、この問題も早急に対応して下さい。

最後に、不安や緊張状態が続く職員にとって、皆さまの温かいご支援やご声援が心強く励みになっています。職員一同深く感謝するとともに、これからも皆さまと心ひとつに「安心」「安全」の医療、介護を提供できるよう奮闘する決意です。

（耳原鳳クリニック
 事務長 北出 祥夫）

心のごもったマスクが 送られてきました

新型コロナウイルスの感染拡大が続く3月中旬、耳原鳳クリニックでは、これまで職員に1日1枚

支給されていたマスクが2日に1枚となり、3月下旬には、1週間に1枚しか配給できないほど、マスクの入手

が困難な

つてきま

した。マ

スクの目

的は、医

療・介

護従事

者が、

抵抗力

の低下

した高

齢者や

有病者

に、病

気をう

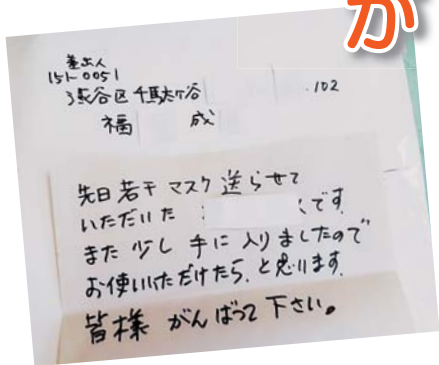
つし

てはい

けな

す。もちろん医療従事者も、自身の感染予防からつけるものです。医療機関の悲痛な声に安倍総理大臣は、マスクを緊急配布すると公言しましたが、クリニックに届いたのは医療用マスクではなく、布マスク20枚でした。最前線で働く医師や看護師には使えず、後方で働く事務職員に配布しました。

3月下旬に、当クリニックの池田信明先生が、政府に対し「一日一枚のマスクを医療・介護従事者に」というインターネットによ



マスクに添えられていた手紙

る署名キャンペーンを発信しました。その反響が大きく、署名は短時間で5000筆になり、大手の新聞にも紹介されました。掲載された翌日から、患者さん、友の会の方々、地域の方、遠くは東京の方、地元企業の皆さまから、数枚から1000枚単位で、心のごもったマスクが送られてきました。

今、盛んに政府や行政がすすめている医療従事者への「感謝の拍手」も良いけれど、感染防御のためのマスクやエプロン・ゴーグルは、まだまだ不足が続いています。早急に対策をしてほしいです。

鳳クリニックでは、職員の手作りで、飛沫感染防止ビニールカーテンをカウンターや送迎車両に設置しました。感染予防から患者さんは受診を控えますので、収入は激減しています。しかし、コロナ対策のための費用は何の補償もないので、出費が増える一方です。政府や行政は、この問題も早急に対応して下さい。

最後に、不安や緊張状態が続く職員にとって、皆さまの温かいご支援やご声援が心強く励みになっています。職員一同深く感謝するとともに、これからも皆さまと心ひとつに「安心」「安全」の医療、介護を提供できるよう奮闘する決意です。

（耳原鳳クリニック
 事務長 北出 祥夫）



感染防止にビニールカーテンを設置